

柏の景気情報（平成21年3月分）

柏商工会議所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成21年3月分）

○ 調査期間 : 平成21年3月17日 ~ 3月24日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	76	71.0%
建設	19	14	73.7%
製造	23	15	65.2%
卸・小売	43	30	69.8%
サービス	22	17	77.3%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成21年3月の調査結果のポイント】

《業況DIは若干回復したが先行き不透明》

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲68.4(前月水準▲74.3)となり、マイナス幅が△5.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲73.3(同▲88.8)、卸小売業▲60.0(同▲74.1)、サービス業▲70.5(同▲75.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲78.5(同▲58.8)である。

【建設業】では「公共工事等が終了し一段落した。今後民間での受注に一層の努力が必要」(板金・金物工事業)、「仕事の方は遊ばない程度にきている。集金はなかなか思うようにできず、現在のところその点に苦労している」(その他の職別工事業)、「例年4月は昇給月だが、今の現状今後の採算利益の見通しを考えると頭の痛いところ。4月には新入社員4名入社するが、社員も若い人を少しずつでも採用していかないと、企業として人材を育て成長できないと思う」(管工事業)などの声があった。

【製造業】では「建築基準法の2年間の猶予が、残すところ数カ月となり、業界内では各社努力中。経営に多大の影響が出るため、当社は30数社で共同会で対応する予定」(一般産業用機械設備製造業)、「新規事業の方向性が見えたので、実験データを収集し、来年度には収益に寄与できるようにしたい」(生コンクリート製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】では「景況感としては1～2月が底であったのではないかと感じている。3月は前年同月に比して悪化しているが、1～2月よりは減少幅が小さくなっており、この状態がしばらく続くのではないか。原材料価格の高騰は直接的な影響というより、低価格化の動きが競争や採算面で影響をもたらすと思う。賃金については、賞与額の減少という形で現実となっている」(百貨店)、「昨今の青果物の動向は一局集中や直売所といった流通経路の変化から、地方市場での取り扱いが厳しい状況は変わらない。改善策は地場野菜を集荷して安定価格の取り扱いをするため、戦略的に産地訪問しています。3月中旬の市況は野菜は品薄で単価高、果実類でも入荷減単価高で販売」(食料・飲料卸売業)、「灯油価格がまた下落。LPGは1月底値で2～3月は大幅上昇。暖冬で販売料は家庭用・工業用ともに、空調需要が減少。とくに製造業を中心とした不況による工場の稼働減が大きく影響している。ここ2～3年CP価格に注目している」(燃料小売業)など、業界全体の厳しい業況に関するコメントが多く寄せられた。

【サービス業】では、「宿泊、宴会とも売り上げ減。企業利用の減が要因。宿泊は出張等の減少。宴会は会議展示会利用の減少が原因」(ホテル)、「地域における商店会の役割が業種により適正に果たしているか、今後同業者が集団になっていく必要があり、地域を超えて連携していければと思う」(酒場・ビヤホール)、「ペット用療法食の価格改正が相次いでいます」(獣医業)、などの声寄せられた。

◎先行き不透明

各業種から「支払が延びたり、価格が抑えられたりしている。先行きの不安は当分続くと思う」(電気工事業)、「顧客の購買意欲が低下し、衝動買いの傾向が薄れ、値を下げても売れない状況になっている。先行き全く不透明である」(その他の各種商品小売業)、「先行きが不透明で経営が難しい」(食堂・レストラン)などのコメントが寄せられている。

◎仕事量減少

各業種から「年度当初は仕事が極めて少ない」(土木工事業)、「業界内ではほとんど仕事がなく、週休3～5日の声を多く聞く。特に地方が顕著」(その他の機械・同部分品製造業)などの声があがってきている。

◎業況悪化

各業種から「業界全体が最悪の時期に入っている」(電気工事業)、「景気は悪いままだが、なんとか賃金は下げないで行きたい」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲65.3	▲66.6	▲64.7	▲63.3	▲68.7
11月	▲55.6	▲50.0	▲55.5	▲58.0	▲56.2
12月	▲63.6	▲50.0	▲68.7	▲62.5	▲70.5
H21年1月	▲65.3	▲80.0	▲66.6	▲56.6	▲66.6
2月	▲74.3	▲58.8	▲88.8	▲74.1	▲75.0
3月	▲68.4	▲78.5	▲73.3	▲60.0	▲70.5
見通し	▲48.6	▲42.8	▲53.3	▲36.6	▲70.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成21年3月の業況についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲68.4(前月水準▲74.3)となり、マイナス幅が△5.9ポイント縮小した。

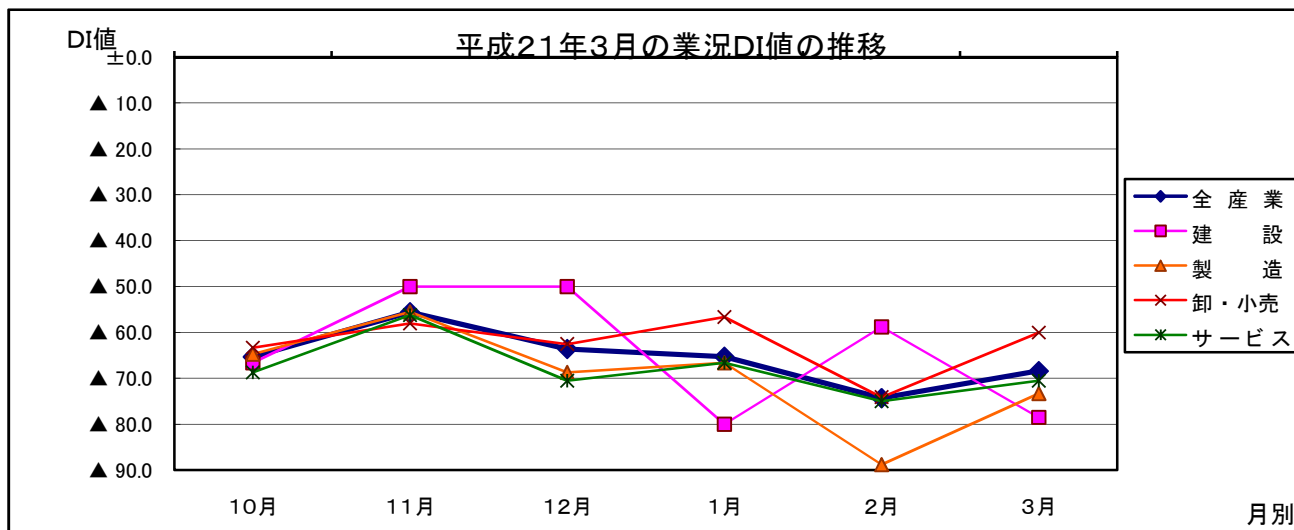
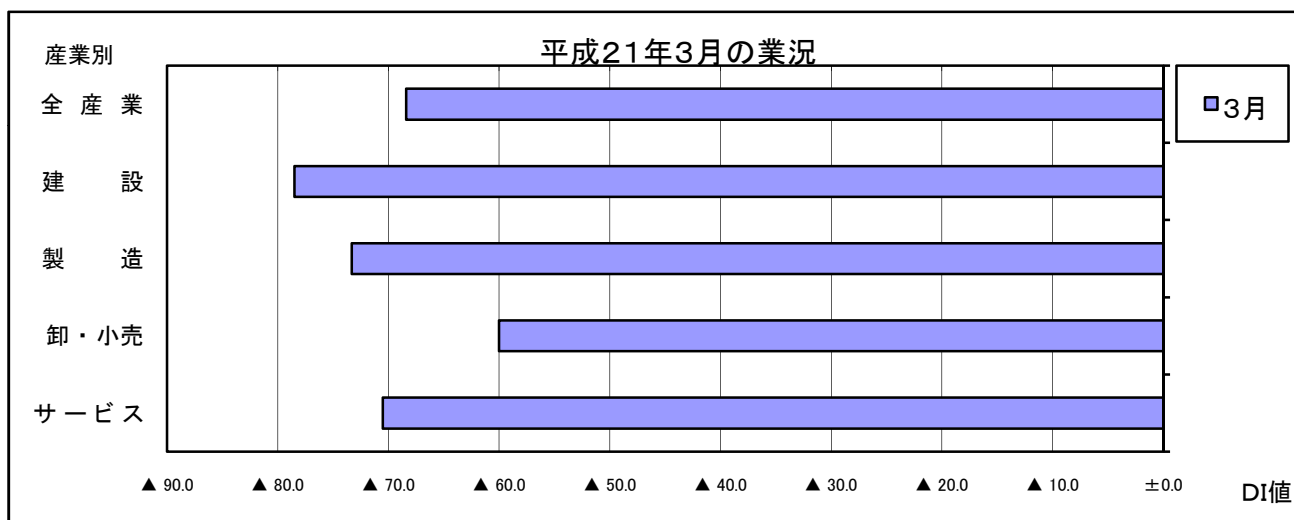
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲73.3(同▲88.8)、卸小売業▲60.0(同▲74.1)、サービス業▲70.5(同▲75.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲78.5(同▲58.8)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲48.6(前月水準▲58.5)となり、マイナス幅が△9.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲36.6(同▲54.8)、製造業▲53.3(同▲66.6)、建設業▲42.8(同▲47.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲70.5(同▲68.7)である。

平成21年3月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成20年	11月	12月	平成21年			先行き見通し	
	10月			1月	2月	3月	4月～6月	3月～5月
全産業	▲65.3	▲55.6	▲63.6	▲65.3	▲74.3	▲68.4	▲48.6 (▲58.5)	
建設	▲66.6	▲50.0	▲50.0	▲80.0	▲58.8	▲78.5	▲42.8 (▲47.0)	
製造	▲64.7	▲55.5	▲68.7	▲66.6	▲88.8	▲73.3	▲53.3 (▲66.6)	
卸・小売	▲63.3	▲58.0	▲62.5	▲56.6	▲74.1	▲60.0	▲36.6 (▲54.8)	
サービス	▲68.7	▲56.2	▲70.5	▲66.6	▲75.0	▲70.5	▲70.5 (▲68.7)	



【平成21年3月の売上についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲56.5(前月水準▲58.5)となり、マイナス幅が▲2.0ポイント縮小した。

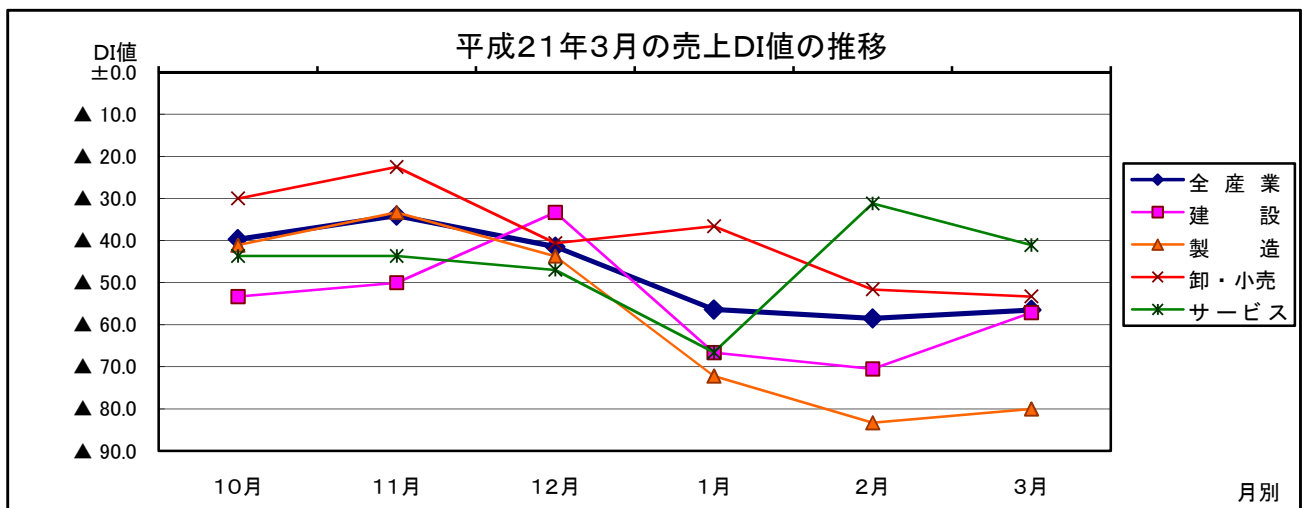
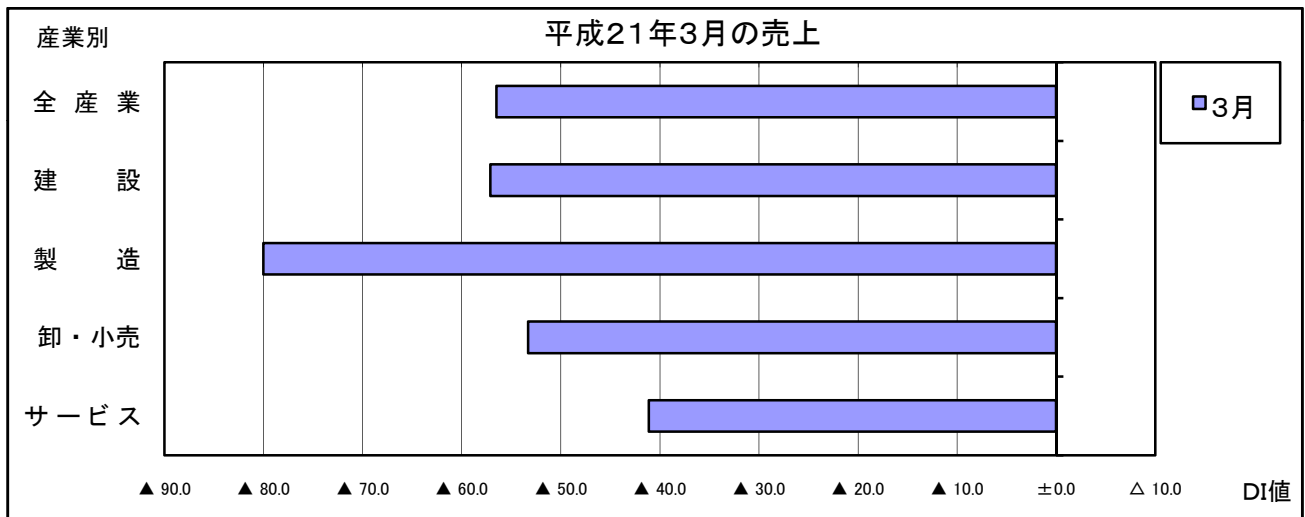
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲57.1(同▲70.5)、製造業▲80.0(同▲83.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲41.1(同▲31.2)、卸小売業▲53.3(同▲51.6)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲42.1(前月水準▲53.6)となり、マイナス幅が△11.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種において、マイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、製造業▲40.0(同▲72.2)、建設業▲57.1(同▲64.7)、卸小売業▲36.6(同▲41.9)、サービス業▲41.1(同▲43.7)である。特に、製造業はマイナス幅が△32.2ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成21年3月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲39.7	▲34.1	▲41.5	▲56.4	▲58.5	▲56.5	▲42.1(▲53.6)
建設	▲53.3	▲50.0	▲33.3	▲66.6	▲70.5	▲57.1	▲57.1(▲64.7)
製造	▲41.1	▲33.3	▲43.7	▲72.2	▲83.3	▲80.0	▲40.0(▲72.2)
卸・小売	▲30.0	▲22.5	▲40.6	▲36.6	▲51.6	▲53.3	▲36.6(▲41.9)
サービス	▲43.7	▲43.7	▲47.0	▲66.6	▲31.2	▲41.1	▲41.1(▲43.7)



【平成21年3月の採算についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲63.1(前月水準▲63.4)となり、マイナス幅が△0.3ポイント縮小した。

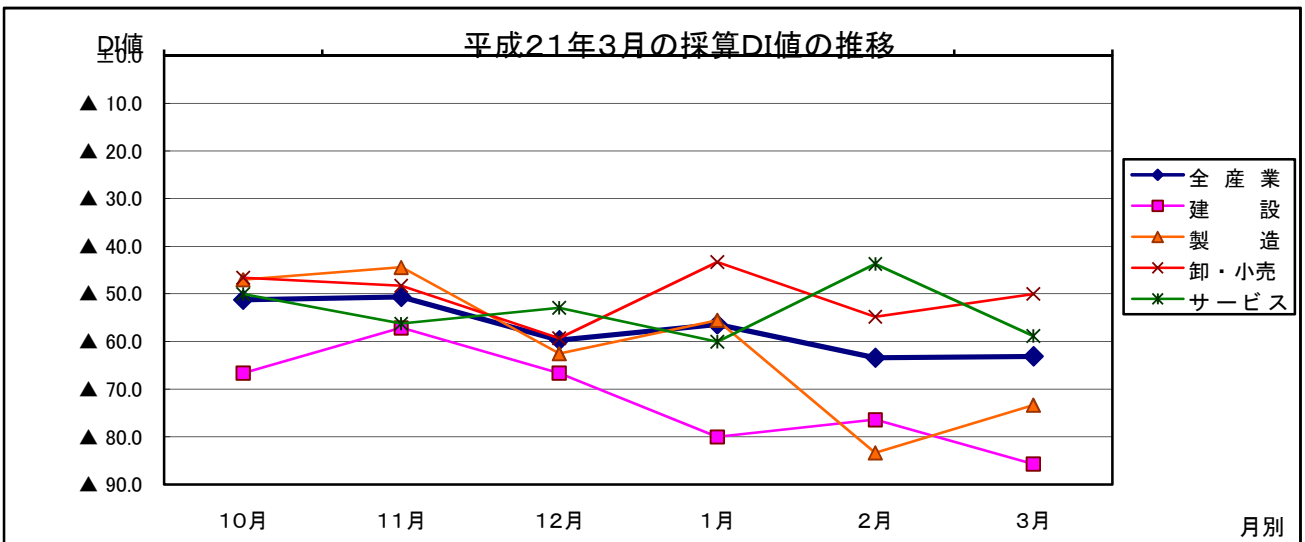
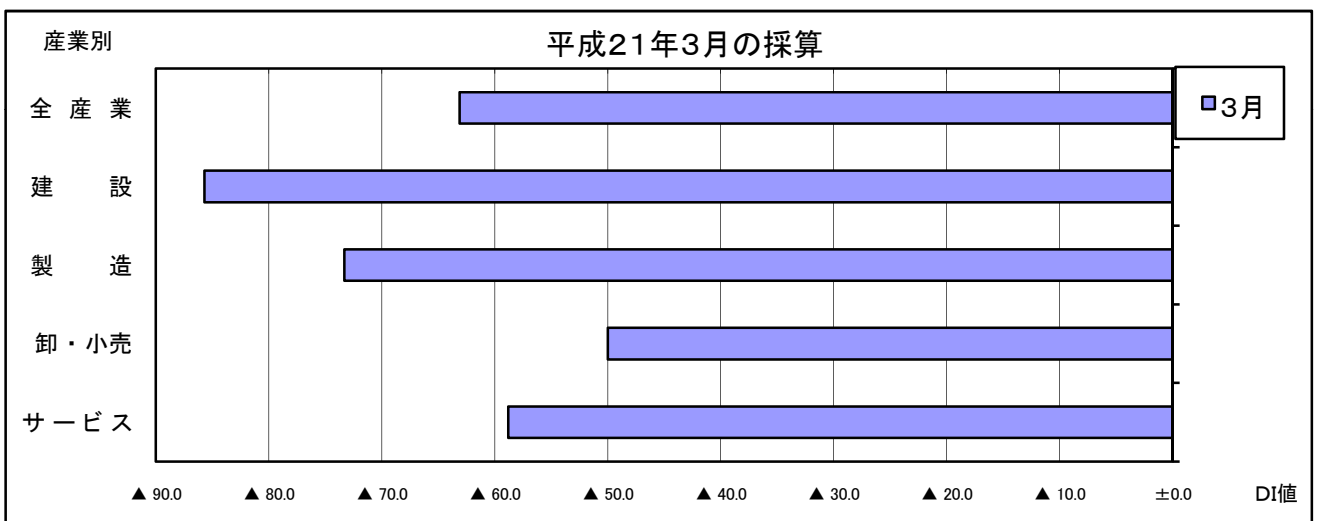
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲73.3(同▲83.3)、卸小売業▲50.0(同▲54.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲58.8(同▲43.7)、建設業▲85.7(同▲76.4)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.8(前月水準▲54.8)となり、マイナス幅が△18.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種において、マイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、製造業▲33.3(同▲66.6)、サービス業▲29.4(同▲62.5)、建設業▲50.0(同▲64.7)、卸小売業▲36.6(同▲38.7)である。特に、製造業、サービス業はマイナス幅がそれぞれ△20ポイント以上大幅に縮小する見通しである。

平成21年3月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲51.2	▲50.6	▲59.7	▲56.4	▲63.4	▲63.1	▲36.8(▲54.8)
建設	▲66.6	▲57.1	▲66.6	▲80.0	▲76.4	▲85.7	▲50.0(▲64.7)
製造	▲47.0	▲44.4	▲62.5	▲55.5	▲83.3	▲73.3	▲33.3(▲66.6)
卸・小売	▲46.6	▲48.3	▲59.3	▲43.3	▲54.8	▲50.0	▲36.6(▲38.7)
サービス	▲50.0	▲56.2	▲52.9	▲60.0	▲43.7	▲58.8	▲29.4(▲62.5)



【平成21年3月の仕入単価についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2.6(前月水準▲8.5)となり、マイナス幅が△5.9ポイント縮小した。

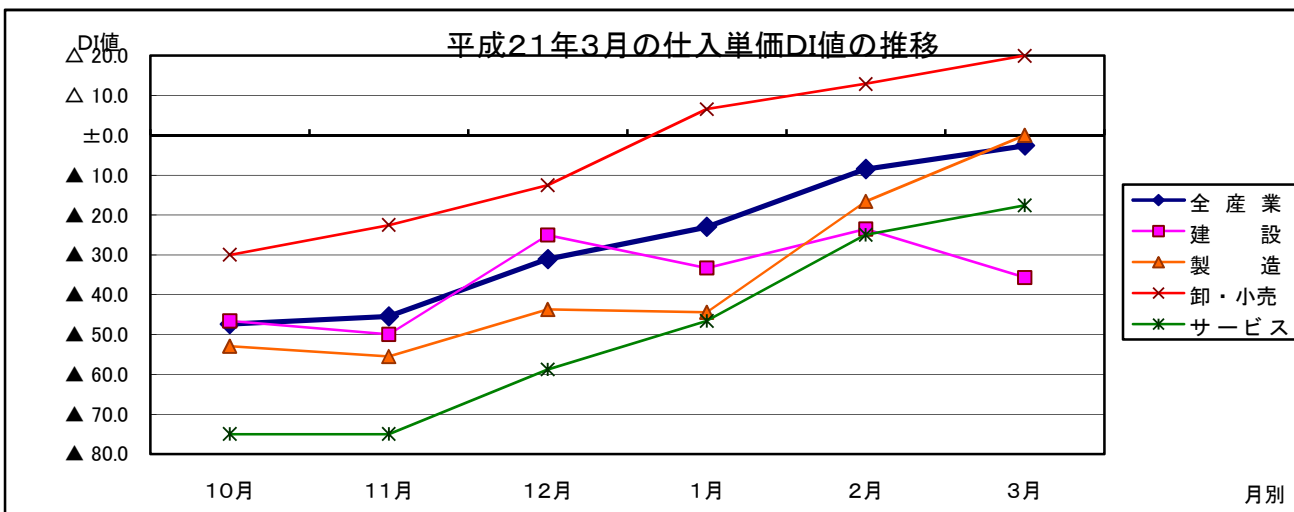
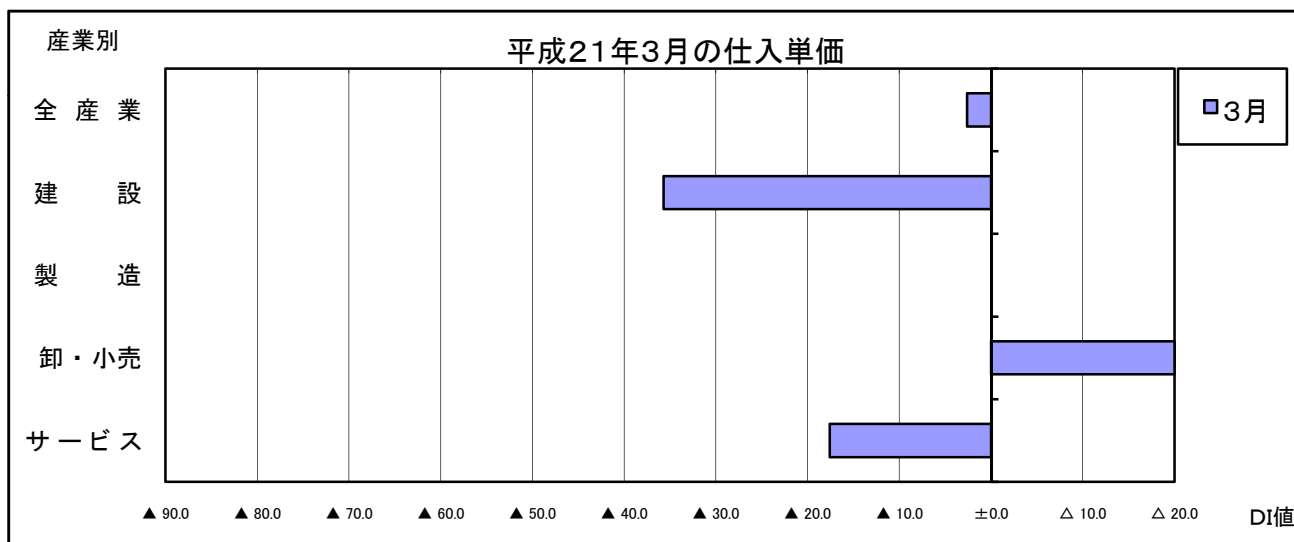
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△20.0(同△12.9)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲16.6)、サービス業▲17.6(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲35.7(同▲23.5)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.2(前月水準▲6.0)となり、マイナス幅が△0.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△20.0(同△5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲35.2(同▲43.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業△6.6(同△12.9)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲21.4(同▲17.6)である。

平成21年3月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲47.4	▲45.5	▲31.1	▲23.0	▲8.5	▲2.6	▲5.2(▲6.0)
建設	▲46.6	▲50.0	▲25.0	▲33.3	▲23.5	▲35.7	▲21.4(▲17.6)
製造	▲52.9	▲55.5	▲43.7	▲44.4	▲16.6	±0.0	△20.0(△5.5)
卸・小売	▲30.0	▲22.5	▲12.5	△6.6	△12.9	△20.0	△6.6(△12.9)
サービス	▲75.0	▲75.0	▲58.8	▲46.6	▲25.0	▲17.6	▲35.2(▲43.7)



【平成21年3月の従業員についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7.8(前月水準▲12.1)となり、マイナス幅が△4.3ポイント縮小した。

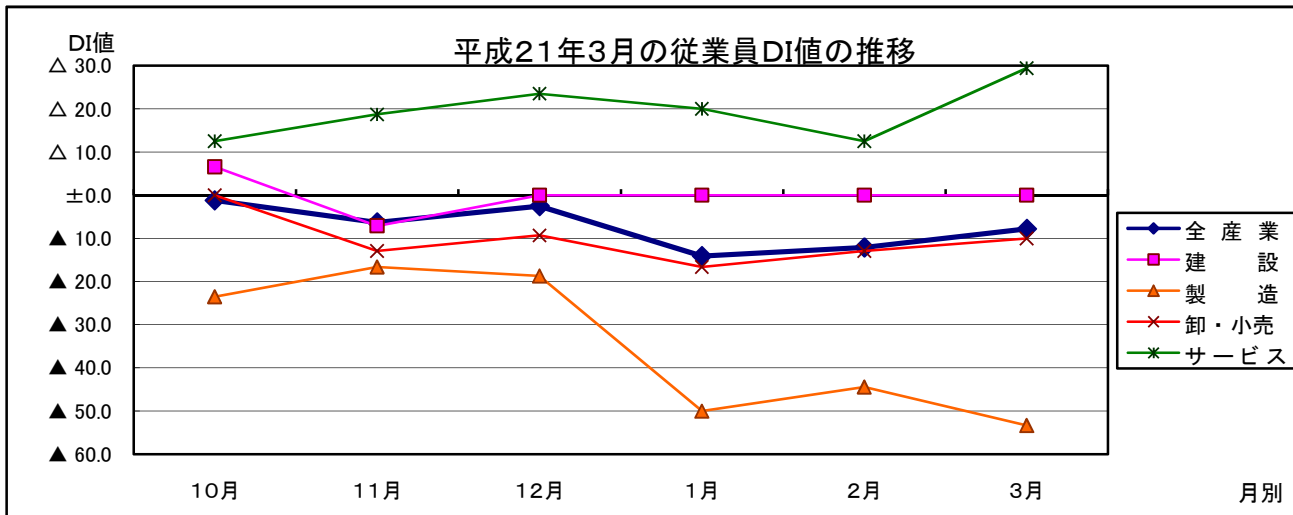
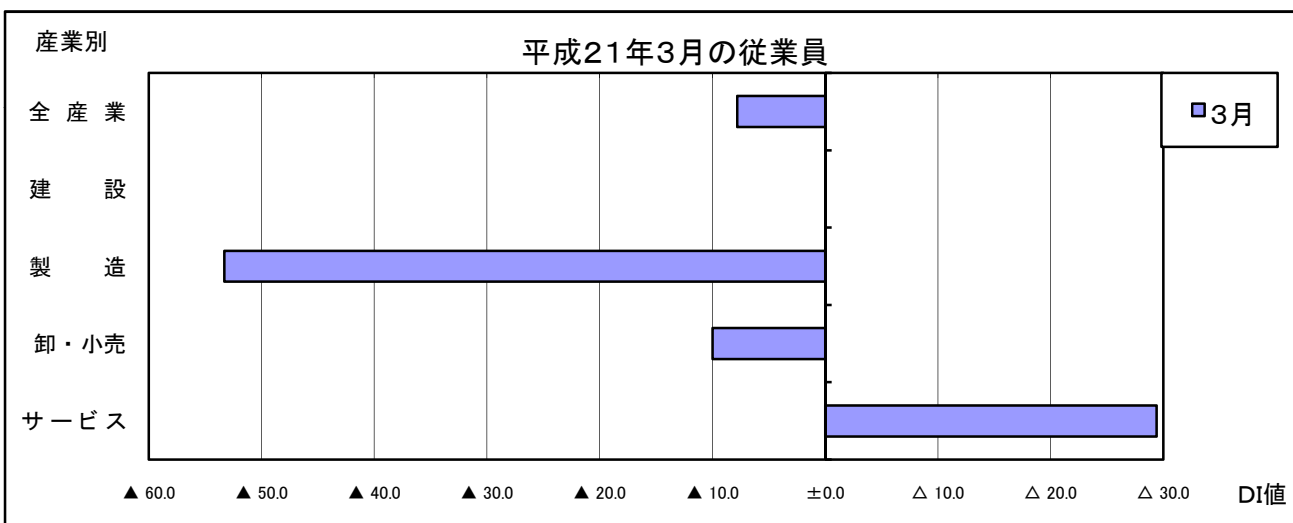
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△29.4(同△12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲10.0(同▲12.9)である。変らない業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲53.3(同▲44.4)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.5(前月水準▲13.4)となり、マイナス幅が△6.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△35.2(同△12.5)であり、特にプラス幅が△22.7ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲46.6(同▲50.0)、卸小売業▲10.0(同▲12.9)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲7.1(同±0.0)である。

平成21年3月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲1.2	▲6.3	▲2.5	▲14.1	▲12.1	▲7.8	▲6.5(▲13.4)
建設	△6.6	▲7.1	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0	▲7.1(±0.0)
製造	▲23.5	▲16.6	▲18.7	▲50.0	▲44.4	▲53.3	▲46.6(▲50.0)
卸・小売	±0.0	▲12.9	▲9.3	▲16.6	▲12.9	▲10.0	▲10.0(▲12.9)
サービス	△12.5	△18.7	△23.5	△20.0	△12.5	△29.4	△35.2(△12.5)



【平成21年3月の資金繰りについての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲46.0(前月水準▲39.0)となり、マイナス幅が▲7.0ポイント拡大した。

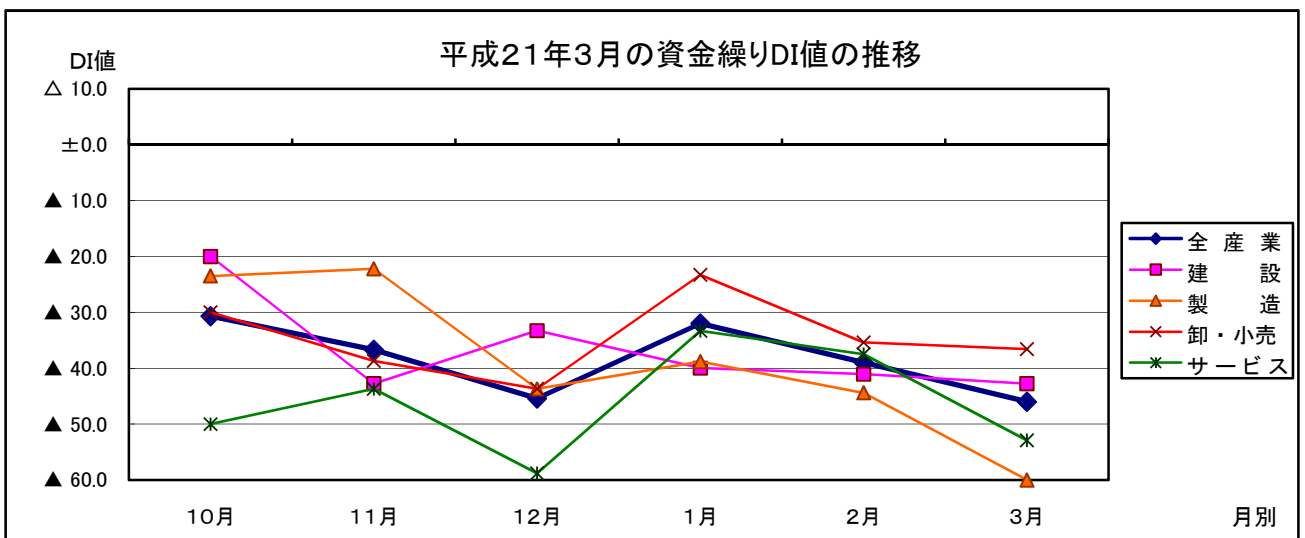
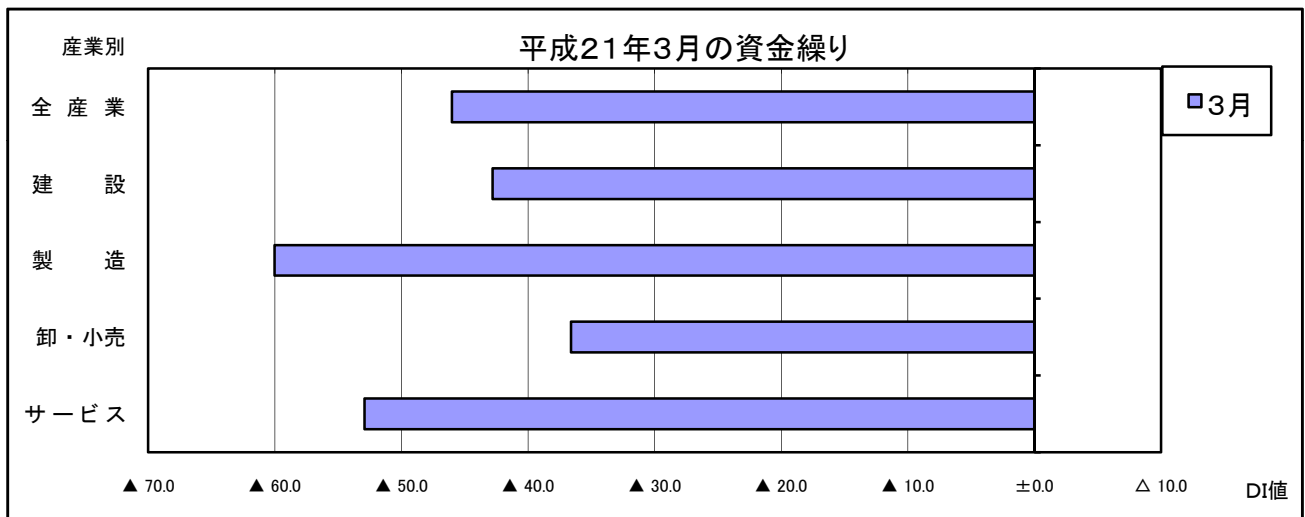
業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が拡大しており、幅の大きい順に、製造業▲60.0(同▲44.4)、サービス業▲52.9(同▲37.5)、建設業▲42.8(同▲41.1)、卸小売業▲36.6(同▲35.4)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.5(前月水準▲36.5)となり、マイナス幅が△1.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.4(同▲35.2)、製造業▲33.3(同▲38.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲29.0)、サービス業▲52.9(同▲50.0)である。

平成21年3月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成20年 10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲30.7	▲36.7	▲45.4	▲32.0	▲39.0	▲46.0	▲35.5(▲36.5)
建設	▲20.0	▲42.8	▲33.3	▲40.0	▲41.1	▲42.8	▲21.4(▲35.2)
製造	▲23.5	▲22.2	▲43.7	▲38.8	▲44.4	▲60.0	▲33.3(▲38.8)
卸・小売	▲30.0	▲38.7	▲43.7	▲23.3	▲35.4	▲36.6	▲33.3(▲29.0)
サービス	▲50.0	▲43.7	▲58.8	▲33.3	▲37.5	▲52.9	▲52.9(▲50.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 56.5	▲ 42.1	▲ 63.1	▲ 36.8	▲ 2.6	▲ 5.2	▲ 7.8	▲ 6.5
建設	▲ 57.1	▲ 57.1	▲ 85.7	▲ 50.0	▲ 35.7	▲ 21.4	±0.0	▲ 7.1
製造	▲ 80.0	▲ 40.0	▲ 73.3	▲ 33.3	±0.0	△ 20.0	▲ 53.3	▲ 46.6
卸・小売	▲ 53.3	▲ 36.6	▲ 50.0	▲ 36.6	△ 20.0	△ 6.6	▲ 10.0	▲ 10.0
サービス	▲ 41.1	▲ 41.1	▲ 58.8	▲ 29.4	▲ 17.6	▲ 35.2	△ 29.4	△ 35.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 68.4	▲ 48.6	▲ 46.0	▲ 35.5
建設	▲ 78.5	▲ 42.8	▲ 42.8	▲ 21.4
製造	▲ 73.3	▲ 53.3	▲ 60.0	▲ 33.3
卸・小売	▲ 60.0	▲ 36.6	▲ 36.6	▲ 33.3
サービス	▲ 70.5	▲ 70.5	▲ 52.9	▲ 52.9

【平成21年3月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	景気は悪いままだが、なんとか賃金は下げないで行きたい	業況悪化 賃金現状維持	一般土木建築工事業
	年度当初は仕事が極めて少ない	仕事量減少	土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	公共工事等が終了し一段落した。今後民間での受注に一層の努力が必要	公共工事 受注努力	板金・金物工事業
	仕事の方は遊ばない程度にきている。集金はなかなか思うようにできず、現在のところその点に苦労している。	売掛金回収困難	その他の職別工事業
	例年4月は昇給月だが、今の現状今後の採算利益の見通しを考えると頭の痛いところ。4月には新入社員4名入社するが、社員も若い人を少しずつでも採用していかないと、企業として人材を育て成長できないと思う。	昇給控え 人材育成	管工事業(さく井を除く)
	業界全体が最悪の時期に入っている。支払が延びたり、価格が抑えられたりしている。先行きの不安は当分続くと思う。	業況悪化 先行き不安	電気工事業
工業	建築基準法の2年間の猶予が、残すところ数カ月となり、業界内では各社努力中。経営に多大の影響が出るため、当社は30数社で共同会で対応する予定。	建築基準法	一般産業用機械設備製造業
	引き合いの件数自体はそこそこあるが、コスト削減をかなり前面に出したものは増えている。業界内ではほとんど仕事がなく、週休3～5日の声を多く聞く。特に地方が顕著。	コスト削減 仕事量減少 週休増加	その他の機械・同部分品製造業
	新規事業の方向性が見えたので、実験データを収集し、来年度には収益に寄与できるようにしたい。	新規事業	生コンクリート製造業
卸小売	景況感としては1～2月が底であったのではないかと感じている。3月は前年同月に比して悪化しているが、1～2月よりは減少幅が小さくなっており、この状態がしばらく続くのではないかと。原材料価格の高騰は直接的な影響というより、低価格化の動きが競争や採算面で影響をもたらすと思う。賃金については、賞与額の減少という形で現実となっている。	低価格化 採算の影響 賞与削減	百貨店
	昨今の青果物の動向は一局集中や直売所といった流通経路の変化から、地方市場での取り扱いが厳しい状況は変わらない。改善策は地場野菜を集荷して安定価格の取り扱いをするため、戦略的に産地訪問しています。3月中旬の市況は野菜は品薄で単価高、果実類でも入荷減単価高で販売。従来からのやり方を変え、法令順守の上顧客への素早い対応で拡大を図っていく。	流通経路変化 野菜入荷減少 青果物減少	食料・飲料卸売業
	好調なものは米飯・パン・菓子等。直近4週間対前年比で107%	食料品好調	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	最近客単価は下がったが、客数は若干増加傾向	客単価減少 客数増加	菓子・パン小売業
	灯油価格がまた下落。LPGは1月底値で2～3月は大幅上昇。暖冬で販売料は家庭用・工業用ともに、空調需要が減少。とくに製造業を中心とした不況による工場の稼働減が大きく影響している。ここ2～3年CP価格に注目している。	灯油価格下落 LPG価格上昇 空調需要減少	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	4月下旬に近隣に同業店舗が開店予定。売り場面積の増加が続いている。	新規開店の影響	書籍・文房具小売業
	顧客の購買意欲が低下し、衝動買いの傾向が薄れ、値を下げてでも売れない状況になっている。先行き全く不透明である。	購買意欲低下 先行き不透明	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	3月度は春のファッションキャンペーンを開催したものの、天候が優れず低調な出足。春物実売期に入っても、経済状況が改善しないため、不要不急の購入を手控え、単品買いにとどまるといった傾向が見られ、売上高は低調な推移となった。新館におけるラグジュアリーブランド4店舗のオープンでは多くの来店があり、売上高も予想を多く上回り、盛り返しを見せた。来店客数も前年を大きく上回る推移となっていることから、月末にかけては接客を強化し、売上に繋げて行く。	春物商戦 天候の影響 購買意欲低下 売上低調 ブランド店オープン 客数増加 接客強化	各種商品小売業

【平成21年3月の業種別業界内トピックス】

	<p>自店経営の厳しいことで、商店会の大会もあった。また、商店会活動に意欲が湧かない人がいる。</p>	<p>経営困難 商店会イベント</p>	<p>書籍・文房具小売業</p>
サービス	<p>先行きが不透明で経営が難しい</p>	<p>先行き不透明</p>	<p>食堂・レストラン</p>
	<p>宿泊、宴会とも売り上げ減。企業利用の減が要因。宿泊は出張等の減少。宴会は会議展示会利用の減少が原因。</p>	<p>宿泊減少 宴会減少 企業利用減少</p>	<p>ホテル</p>
	<p>地域における商店会の役割が業種により適正に果たしているか、今後同業者が集団になっていく必要があり、地域を超えて連携していければと思う。</p>	<p>商店会活動 地域連携</p>	<p>酒場・ビヤホール</p>
	<p>ペット用療法食の価格改正が相次いでいます。</p>	<p>価格改正</p>	<p>獣医業</p>

◎先行き不透明

- ・ 支払が延びたり、価格が抑えられたりしている。先行きの不安は当分続くと思う。
- ・ 顧客の購買意欲が低下し、衝動買いの傾向が薄れ、値を下げても売れない状況になっている。先行き全く不透明である。
- ・ 先行きが不透明で経営が難しい

◎仕事量減少

- ・ 年度当初は仕事が極めて少ない
- ・ 業界内ではほとんど仕事がなく、週休3～5日の声を多く聞く。特に地方が顕著。

◎業況悪化

- ・ 業界全体が最悪の時期に入っている。
- ・ 景気は悪いままだが、なんとか賃金は下げないで行きたい

平成21年3月のCCI LOBOとの比較











- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲68.4に対し、「CCI-LOBO」が▲72.8で、柏の方がマイナス幅が4.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業・製造業で、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・サービス業。
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲56.5に対し、「CCI-LOBO」が▲68.5で、柏の方がマイナス幅が12.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業・卸小売業・建設業で、サービス業・卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業で10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲63.1に対し、「CCI-LOBO」が▲67.2で、柏の方がマイナス幅が4.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業・サービス業で、卸小売業10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業で、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲2.6に対し、「CCI-LOBO」が▲25.7で、柏の方がマイナス幅が23.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業・製造業・サービス業で、特に卸小売業・製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲7.8に対し、「CCI-LOBO」が▲20.0で、柏の方がマイナス幅が12.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業・建設業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、特に製造業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲46.0に対し、「CCI-LOBO」が▲48.1で、柏の方がマイナス幅が2.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業で、特に建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・サービス業。

平成21年3月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 68.4	 78.5	 73.3	 60.0	 70.5
CCI LOBO	 72.8	 72.1	 73.5	 75.5	 70.2


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 56.5	 57.1	 80.0	 53.3	 41.1
CCI LOBO	 68.5	 64.8	 68.7	 72.1	 66.7


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 63.1	 85.7	 73.3	 50.0	 58.8
CCI LOBO	 67.2	 67.0	 71.6	 67.4	 65.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 2.6	 35.7	 ±0.0	 20.0	 17.6
CCI LOBO	 25.7	 29.6	 26.8	 23.9	 27.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 7.8	 ±0.0	 53.3	 10.0	 29.4
CCI LOBO	 20.0	 34.5	 28.6	 8.4	 14.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 46.0	 42.8	 60.0	 36.6	 52.9
CCI LOBO	 48.1	 57.7	 53.2	 40.3	 46.8

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(3月の調査結果のポイント)

調査期間：平成21年3月17日～24日

調査対象：柏市内 107 事業所及び組合に
ヒアリング、回答数 76

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲65.3	▲66.6	▲64.7	▲63.3	▲68.7
11月	▲55.6	▲50.0	▲55.5	▲58.0	▲56.2
12月	▲63.6	▲50.0	▲68.7	▲62.5	▲70.5
1月	▲65.3	▲80.0	▲66.6	▲56.6	▲66.6
2月	▲74.3	▲58.8	▲88.8	▲74.1	▲75.0
3月	▲68.4	▲78.5	▲73.3	▲60.0	▲70.5
見通し	▲48.6	▲42.8	▲53.3	▲36.6	▲70.5

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DIは若干回復したが先行き不透明

3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は68.4(前月水準74.3)となり、マイナス幅が5.9ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業73.3(同88.8)、卸小売業60.0(同70.5)、サービス業70.5(同75.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業78.5(同58.8)である。

建設業

では、「公共工事等が終了し一段落した。今後民間での受注に二層の努力が必要」(板金・金物・事業)、「仕事の方は遊ばない程度にきている。集金はなかなか思つていけません。現在のところその点に苦労している」(その他の職別・事業)、「例年4月は昇給月だが、現状や今後の採算利益の見通しを考えると頭の痛いところ。4月には新入社員4名入社するが、社員も若い人を少しずつでも採用していかないと企業として人材を育て成長できないと思つ」(管・事業)などの声があった。

【製造業】では、「建築基準法の2年間の猶予が、残すところ数カ月となり、業界内では各社努力中。経営に多大の影響が出るため、当社は30数社の共同会で対応する予定」(一般産業用機械設備製造業)、「新規事業の方向性が見えたので、実験データを収集し、来年度には収益に寄与できるようにしたい」(生コンクリート製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】では、「景況感としては1～2月が底であったのではないかと感じている。3月は前年同月に比して悪化しているが1～2月よりは減少幅が小さくなつており、この状態がしばらく続くのではないかと。原材料価格の高騰は直接的な影響として、低価格化の動きが競争や採算面

3月の景気キーワード

購買意欲低下

各業種から「支払が延びたり、価格が抑えられたりしている。先行きの不安は当分続くと思つ」(電気・事業)、「顧客の購買意欲が低下し、衝動買いの傾向が薄れ、値を下げてでも売れない状況になっている。先行き全く不透明である」(その他の各種商品小売業)、「先行きが不透明で経営が難しい」(食堂・レストラン)などのコメントが寄せられている。

売上不振

各業種から「年度当初は仕事量が極めて少ない」(土木・事業)、「業界内ではほとんど仕事がなく、週休3～5日の声を多く聞く。特に地方が顕著」(その他の機械・同部分品製造業)などの声があがってきている。

先行き不透明

各業種から「業界全体が最悪の時期に入っている」(電気・事業)、「景気は悪いままだが、なんとか賃金は下げないで行きたい」(一般土木建築・事業)などのコメントが寄せられた。

CCI LOBOO比較

全産業合計では、「柏の景気」が68.4に対し、「CCI LOBOO」が72.8

で、柏の方がマイナス幅が4.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業・製造業で、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・サービス業。

CCI - L O B O

商工会議所早期景気観測(3月速報)

調査期間：平成21年3月17日～24日

調査対象：全国の405商工会議所が2585業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、調査開始後の最悪値を記録した前月と同水準

3月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は72.8となり、調査開始後の最悪値を記録した前月(73.4)から底ばいが続いている。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、調査開始後の最悪値を記録した小売で拡大した一方、他の4業種も低水準で推移した。

景気に関する声、当面する問題としては、受注の大幅な減少や売上の低迷により、業種を問わず収益確保は厳しい状況。また、景気の悪化に伴う先行きへの不安を訴える声も非常に多い。このため、雇用面では過剰感が前月同様に強く、人員削減や倒産・廃業の増加に関する声が各業種から寄せられている。

【建設業】「受注の減少に伴い、資金繰りが悪化。人員削減を実施する事業所も発生する見込み」(一般事業)、「設備投資と住宅着工戸数の減少により、売上の低迷が顕著」(4～5月の受注の予定も立たない状況) (一般事業)、「少ない受注も採算の合わないものが多い。収益確保は厳しい状況

(管工事業)

【製造業】「これまで以上に業況は厳しく、週休3日だった事業所が週休4日、5日と稼働日数がさらに減少」(鉄素形材製造業)、「減少が続く受注を確保するための値下げ競争が厳しく、採算が悪化」(暖房装置・配管製造業)、「売上が前期比50%近く減少している企業が、収益確保には繋がらない」(金属加工機械製造業)

【卸売業】「例年であれば年度末で売上の増加が見込めるところだが、今年は官公庁や企業の引き締めにより売上が減少」(各種商品卸売業)、「消費の低迷が顕著で、果物など警沢品の売上が悪化」(農畜産水産物卸売業)、「2月、3月は電話も全くないほど厳しい状況」(建築材料卸売業)

【小売業】「消費者の低価格・節約志向により、収益が悪化」(百貨店)、「特に飲食サービスの売上が不調」(商店街)、「近隣の大形店の撤退により人通りが減少し、売上も悪化」(商店街)

【サービス業】「歓送迎会の予約も非常に少なく厳しい状況」(食堂・レストラン)、「景気の悪化に伴い来客数・売上が減少し、閉店する店舗も発生」(一般飲食店)、「各企業とも業績悪化のため、トラック輸送が大幅に減少」(その他のサービス業)

三月のキーワード

受注の大幅な減少

世界的な不況の影響に伴う受注の大幅な減少や売上の悪化など、厳しい業況を訴える声が寄せられている。建設業からは、「住宅産業は通常3月に入れば受注増加となるが、今年は前年より動きが鈍く厳しい」(帯広・建築事業)、「公共工事と景気悪化による民間工事の減少で、売上が大幅に悪化」(境港・建築事業)、「製造業からは、「消費が一段と冷え込む中、外食産業の不振に伴い売上が減少」(横浜・他の食料品製造業)、「住宅着工の減少で厳しい状況が続く、収益が大幅に悪化」(境港・製材木製器製造業)、「公共工事の削減とマンション不況の影響により、受注が大幅に減少」(横須賀・セメント製品製造業)などの声が寄せられている。

【消費マインドの冷え込み】景気の悪化や先行きへの不安感から消費者の購買意欲の低下による売上の悪化などの悪影響を挙げる声も寄せられている。小売業からは、「買い控えムードが高まっており、商品価格の値下げが止まらず採算が悪化」(札幌・百貨店)、「企業の倒産や従業員削減等の影響で特に飲食店の売上が減少」(東大阪・その他の小売業)、「前月に比べ来客数は増加したものの、購入単価は低く、売上の増加には繋がらない」(金沢・商店街)、「サービス業からは、「景気の悪化により送別会の2次会、3次会が減少し、売上が悪化」(倉敷・食堂・レストラン)、「例年は予約が増加する時期だが、前年同月と比べられないほど厳しい状況」(銚子・旅館)といった声がある。

雇用情勢の悪化

売上の低迷を始めとする業況悪化の影響などから、今月も倒産・廃業に加え、雇用調整や賃金削減の実施に関する声が多い。建設業からは、「現在の厳しい状況が続けば、賃金の削減等を行わざるを得ない」(東広島・一般事業)、「製造業からは、「3月に入り一段と受注が減少し、倒産する事業所も発生」(半田・織物製造業)、「受注が大幅に減少し、従業員を削減」(帯広・家具製造業)、「サービス業からは、「業種を問わず受注が減少し、春の定期昇給な

ど考えられない状況」(上田・ソフトウエア業)などの声が寄せられている。一方、小売業からは、「パート・アルバイトの応募が増加し、賃が向上した」(焼津・百貨店)との声も寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲64.6	▲71.1	▲59.8	▲63.8	▲64.4	▲65.9
11月	▲66.7	▲70.0	▲68.3	▲67.6	▲64.8	▲64.6
12月	▲70.2	▲74.2	▲72.7	▲67.6	▲69.2	▲67.3
1月	▲71.3	▲73.2	▲72.5	▲71.6	▲70.6	▲69.6
2月	▲73.4	▲75.8	▲75.6	▲71.1	▲71.5	▲72.6
3月	▲72.8	▲72.1	▲73.5	▲70.5	▲75.5	▲70.2
見通し	▲64.0	▲68.3	▲63.4	▲60.7	▲65.5	▲61.4

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI